

スマートライフ推進協創プロジェクトにおける委員からの意見及び対応状況

現状評価 凡例

A：取り組んでいる

B：あまり出来ていない

C：出来ていない

	意見	対応状況	現状評価
1	桑名市のスマートタウンの整備や熊野市のマイクロ水力発電の実証などいくつかプロジェクト化されてきている。平成26年度に向けてさらに取り組みを推進してほしい。	<p>「桑名プロジェクト」では、第3回検討会（7月25日）、EV活用検討分科会（7月31日、8月6日）を開催し、桑名市の住宅団地（陽だまりの丘）をフィールドに、EV車両のシェア事業、住居等へのエネルギーマネジメントシステム導入など、地域コミュニティでの環境・エネルギー関連技術を活用したプロジェクトの検討を進めています。</p> <p>また、「熊野プロジェクト」では、「マイクロ水力発電分科会」を設置し、熊野市新鹿小中学校周辺の農業用水路をフィールドに実証試験を行っている、持ち運び可能なマイクロ水力発電装置の商品開発に向けた検討を行いました。引き続き、実証試験を継続し、商品開発に向けた課題抽出を進めます。</p>	A
2	防災施設・避難施設における再エネ・蓄エネの整備を契機として産業振興につなげていくといのではないか。	環境省から平成26年6月に採択を受けた再生可能エネルギー等導入推進基金事業（15億円：平成26年度から平成28年度までの3ヶ年事業）を活用して、地震や台風等による大規模災害に備え、避難所や防災拠点等に太陽光発電などの再生可能エネルギーや蓄電池などを導入し、災害に強く低炭素なまちづくりを推進します。	A
3	（桑名プロジェクト検討会について）電気自動車のカーシェア事業は厳しい市場環境にあり、事業とするならばシュミレーションを行うなど留意が必要である。	桑名プロジェクト検討会でのEV等の活用については、H26年3月に決定した陽だまりの丘での「先進的都市型スマート住宅供給事業」でのEVレンタル事業の実証検討や、市内周遊観光実証を行う予定です。これら実証での課題を整理した上で、カーシェア事業の可能性（シュミレーションを含む）について検討していきます。	A

意見		対応状況	現状評価
4	(熊野プロジェクト検討会について) 電気自動車の充電インフラについては、来年度も経済産業省は力を入れており、普通充電器も含めて検討するといいいのではないかと。	電気自動車の充電インフラについては、今年度(12月予定)、一般社団法人 次世代自動車振興センター及び合同会社日本充電サービスの補助金を利用し、急速充電器を熊野市役所周辺駅前駐車場に整備を行う計画となっています。	A
5	(スマートアイランドプロジェクト検討会について) 離島モデルでの成功事例は宮古島である。その特徴は小学生を参加させるなど地域住民を巻き込んだ取り組みであり、マスメディアでも取り上げられている。	スマートアイランドプロジェクト検討会には、答志島の3自治会の会長及び女性部の代表にご参加をいただき、地域の現状や新エネルギーや小型モビリティの活用に向けたアイデアをいただいております。また、検討会の場だけではなく、鳥羽市内の住民の皆様と直接お話を伺うなどの活動を通じて、地域住民を巻き込んだ活動となるように取り組んでいるところです。	B
6	(スマートアイランドプロジェクト検討会について) 観光シーズンは地域ごとに異なるため、電動モビリティを地域でシェアして回すことを検討してもいいのではないかと。	電動モビリティのシェアにつきましても、答志島3自治会及び商工会議所などが、管理運営の手法の一つとして検討をしていることです。例えば、地域でイベントが開催される際に、臨時で観光客向けに電動モビリティを貸し出せないかなどのアイデアも出てきています。	B